



当別中学校教頭



当別小学校生徒への指導

出村 Demura Yoshitaka 好孝さん

広報4月号「当別この逸品」で紹介しました当別のお酒「美田」のラベル文字を書いた当別中学校教頭、出村好孝さんに書道について伺いました。

書道は奥が深い

巨大な紙に、音楽で踊りながら書道をするというパフォーマンスの「書道ガールズ」という映画が話題になっていますが、「すそ野を広げる」という意味ではいいことですね。近年はスポーツや塾などの習い事が増え、昔多かったそろばん、習字を習う子どもは少なくなりました。しかし中国、日本の文化である漢字の意味や成り立ち、古典を学ぶことで、書道の奥の深さに気付くのです。国語の授業でも漢字の成り立ちなどを話すと生徒は興味を持って聞いてくれます。

私は小学校に入る前から習字を習っていました。そして国語の教

師を目指して教育大学の書道科に学び、現在は教育大学の卒業生を中心に全国に100名の会員を持つ「書圏」というグループに属しています。このメンバーで練成会をしていますが、仲間と刺激し合いながら書に集中する時間が持て、本当に勉強になるんです。

何を考えて描くか・・・

何事も基本です。書道の基本とは日本、中国の古典を手本にすることです。基本を知らない文字・作品は見て分ります。私は審査をすることもありますが、心を動かす何かを感じる作品に出会うことがあります。整った作品の美しさもありますが、アンバランスな美しさもあるのです。筆には馬の毛、羊の毛など様々な種類があり、感触も違います。紙や墨も多種です。筆を紙においた瞬間、返ってくる弾力を感じながらリズムをつかんで次の

動作に移る。紙と筆と墨と真っ向勝負をする。ワクワクしてきます。

これからの目標は

生徒には立って書いてみたり一筆で書いてみたり違った方法での習字を勧めています。整った文字を目指すのはもちろんですが、

額から汗が滴るくらい熱くなって自分の文字を表現して欲しいですね。中学校を卒業してからは筆文字に親しむ機会は少なくなるとは思いますが、それまでの間に筆文字のすばらしさ、筆の感触を教えたいです。自分の目標については、北海道書道展、毎日書道展をはじめ年間6回の展示会に出品し、ロマンある作品を制作できるよう練習を積むことですね。

雅号は師匠からいただいた さんきょう 三彊

■ ふれあい倉庫情報

【カルチャーホール】

「ナツメロ発表会」

▼日時 6月20日(日) 13時～17時

▼内容 カラオケ発表会

▼入場料 大人1,000円

▼問合せ ナツメロ会 (☎090-9082-4303)

「未来サークル当別教室ピアノ発表会」

▼日時 6月27日(日) 13時30分開演

▼問合せ 未来サークル (☎011-764-3921)

【多目的ホール】

「初心者向け 菊作り講習会」

▼日時 6月12日(土) 13時30分～(2時間程度)

▼内容 さし芽から大菊・小菊の作り方をお話します。参加は無料。参加者に菊の苗を提供します。

▼問合せ 当別菊花同好会 清野勲 (☎22-3452)

「きりり工房 作品展示会」

▼日時 6月18日(金)・19日(土) 10時～16時

▼問合せ 井川邦子 (☎090-9529-1155)

「春の衣料処分セール」

▼日時 6月24日(木)・25日(金)

9時30分～18時30分

▼問合せ 松谷 (☎22-2355)

「高橋哲夫 油絵展」

▼日時 6月29日(火)～7月9日(金) 9時～17時

▼問合せ 高橋 (☎22-1255)

◆地場産品コーナーが衣替えしました◆

アスパラや山菜、花苗などぞくぞく入荷中です。

また、町民ポータルサイトでふれあい倉庫のブログが公開されています。新鮮野菜情報も随時更新中！

◆朝市が開催されます◆

▼日時 6月26日(土) 10時～12時(予定)

※詳細は、町HP・チラシなどでお知らせします。

当別観光情報プラザ【FIKA】フィーカ

◆営業時間 8時30分～20時

観光情報と特産品のPR販売をしています。

また、休憩スペースもありますので、待ち合わせや休憩など気軽にご利用ください。

▼問合せ ふれあい倉庫 (☎27-6600)

商工課 (☎23-3129)

続 町長の日記

平成22年5月18日(火)

当別駅前前のふれあい倉庫に最近、自作で100号の風景画を寄贈して下さった方がいる。たたみ二畳近くの大作なので、ふれあい倉庫に入るとすぐ目に入る。

当別町の優良田園住宅と背景の芦別岳や夕張岳がダイナミックに描かれて凄い迫力を感じる。

この方は北海道生まれの人だが、当別町の田園風景が気に入ったので数年前に金沢地区へ移住して来られたと言う方なので格別に嬉しい。

ふれあい倉庫でコーヒーを飲みながら油絵のお話を伺ったが、絵を描くのもやはり体調が良くないと全然描けないそうで、一枚の絵を仕上げるまでに何日も何日もかかるらしく、体力が相当必要との事だった。

当別の農村を美しいと感じ、それを表現しようとして全精魂を打ち込まれる人が、この街にもおられる事を知り、私は若い頃に「ヨーロッパ地域づくり」の研修旅行に参加した時、イギリスのターナーやジョン・ラスキン等がヨーロッパの美しい農村を将来に残す為に絵や詩で人々に景観の保全を呼びかけていたと言う事を思い出した。

あの頃、私は、あれは一流の芸術家や評論家がいだから出来る事と思っていたが、今、この町にそんな人がいる事が判って本当に感激した。

そして、風景画を見ていて、今から30年以上前にヨーロッパでは機械化の為に「農業人口」の減少は止むを得ないが「農村の人口」は減らさないと言う基本政策を既に持っていたから、ドイツの農家が昔は牛の乳を搾っていたが、今は、村へ観光に来る人の財布をしばって生きる事も考えていると休日を農村で過ごしてもらう為に「農村ホリデー」を熱く語っていた農婦の顔も思い出した。

私は、土地改良区の理事長の時に太美の基線排水路の整備事業で、河川敷にミニ広場を作り、あたかもテラスに降りるように半円形の階段を設けて、周りに町内の短歌会の句碑を並べたりして農村のアメニティーづくりをした事があったが、ふれあい倉庫で当別の田園風景の素晴らしい絵に刺激されて、「美しいまちづくり」のアイデアを寄せてくれる人が増えて来るような気がする。

当別町長 泉亭俊彦